

特集

絨毛性疾患の最新トピックス

企画者のことば

松村謙臣*¹ 井篁一彦*²

絨毛性疾患は忘れた頃にやってくる比較的稀な疾患ですが、常に頭に入れておくべき疾患です。しかし何となく苦手意識のある方も多いのではないのでしょうか？そして、絨毛性疾患取扱い規約第3版が2011年に発刊されてから10年以上が経過し、発生動向・登録の実際、診断や治療の新たな知見など絨毛性疾患に関する情報をアップデートすべき時が来ています。そこで今回、本特集号を企画することとしました。

本特集は、絨毛性疾患の発生メカニズムと分子生物学、取扱い規約には書かれていない診断のピットフォール、診断のために参考とすべき新たな写真、国内の治療ガイドラインのみでは

判断に迷う治療困難例への対応法、免疫チェックポイント阻害薬を含む絨毛癌に対する新たな治療戦略などが含まれています。それらのトピックに対して、この分野の専門家の先生方に依頼して、絨毛性疾患を深く掘り下げた内容を執筆していただきました。本特集は、すでに皆さんのお手元にあるだろう絨毛性疾患取扱い規約第3版および子宮体がん治療ガイドライン(2018年版)を補完し、深く理解するための内容となっています。本特集が、読者諸氏の本疾患に対する苦手意識を払拭するために役立てば幸いです。

*¹Noriomi Matsumura 近畿大学医学部産科婦人科学教室(教授)

*²Kazuhiko Iino 和歌山県立医科大学産科婦人科学教室(教授)